

〈午後2時50分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

利根川 正です。

1回目の質問をお願いします。

1、能登半島地震の検証と今後の取組について。

この能登半島地震は、大きな被害をもたらし、現代においても輸送ルート確保の困難さや、高齢化が進んだ被災地への対応など、様々な課題が浮き彫りになりました。

そして、焼失戸数約300戸に及ぶ輪島市の朝市商店街の大規模火災は糸魚川市民としては、胸が痛い思いです。これからの輪島市の復興まちづくりに糸魚川市の取組を紹介できればと考えます。

今回の能登半島地震において、発生から今日までの、石川県の被害対応を糸魚川市に置き換えて検証してみることが、大切と考えます。

また、このような災害がいつ起こるか分かりません。備えを万全にして、明日は我が身として、そのとき何ができるのかではなく、そこまでに何をしておくべきかが大切です。

(1) 自主防災組織の育成について、まず災害時大切なのが命を守ることで、地域住民自らが、自分の命は自分で守る「自助」が先に来ます。次に地域住民が集まってお互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むこと「共助」が必要です。最後に、行政、消防、警察などの防災活動で「公助」です。「自助、共助、公助」が一体となっこそ、災害の軽減となります。自主防災組織の取組と、さらに効果的に発揮させることが重要と考えますが、市の考えを伺います。

(2) 防災訓練の大切さについて、今回の能登半島地震において、糸魚川市と同じような地形をしており、海岸部や中山間地域では、津波や土砂崩れ（山津波）で被害があり、孤立状態となることが予想されます。救助が届くまでの間、生活できるよう防災拠点の整備、また必要な装備・物資の保管、器具の配置、割り振り確認、要配慮者の支援など、訓練の中で全員に理解してもらい、自発的な活動にするため、どのようにしたらよいかを伺います。

(3) 行政が災害時スムーズに機能することが大切で、職員が出勤できないときもあり、また、人員不足、仕事量の増大、他の業務も兼務しなければならない場面があります。そのために明確な代行順位を決めて実効性のある業務継続体制を確保しておくこと、定期的な訓練、点検等を行い、体制整備を進めてもらいたいと思います。また、民間事業者との関連性もつুক্তておくことが必要と考えますが、市の考えを伺います。

(4) 発生から今日までの糸魚川市の検証と石川県の現状を糸魚川市に置き換えた場合のことに ついて伺います。

- ① 地震発生時の広報無線が少なかったことについて伺います。
- ② インフラ、特に水道の復旧に時間がかかっているが、糸魚川市は災害時、対応できるのか伺います。
- ③ 複合災害時の問題で、孤立集落をどう防げるか伺います。
- ④ 狭い道などに対応できる軽救急車が必要ではないかと思いますが、考えを伺います。
- ⑤ ボランティア受入体制の整備、早期対応はできるのか伺います。
- ⑥ 災害ごみ問題で、場所の確保、協定している市はあるか伺います。
- ⑦ 災害時における、広域的な災害応急対策を実施するため、被災しない構造で装備の備わった拠点となる災害時拠点広域駐車場が松本糸魚川連絡道路に必要であると思いますが、市の考えを伺います。

2、公共施設の適正配置について。

- (1) 近年、急激な人口減少と少子化の中、保育所、幼稚園の運営も難しくなっています。糸魚川市は、子ども一貫教育をしっかりと行っていくこと、また、地域と一緒に子供を育てること、人間形成においても幼児教育が一番大切な時期です。糸魚川市において子供の人数の減少に対応した、持続可能な保育所幼稚園の運営の在り方、適正配置についてどのように進めていくのか伺います。
- (2) 小中学校においても、市の学校施設長寿命化計画において、児童生徒の減少を踏まえ、将来を見据えた小中学校の適正配置が必要になり、小規模校、過小規模校の解消を目指して今から検討に入るべきで、学校施設の現状と課題を市民に伝え、市民を交えた議論を進めるべきと思いますが、市の考えを伺います。

以上1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

利根川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、自主防災組織の活動は大変重要であり、引き続き必要な支援や連携を行ってまいります。

2点目につきましては、災害発生時に備えるための知識や行動を具体的に身につけるため、訓練を重ねていくことが重要と考えております。

3点目につきましては、平成24年3月に災害時業務継続計画を策定しておりますが、今回の地震対応を踏まえて見直しを進めてまいります。

また、災害時協定団体との連携を図るため、連携会議の継続実施や防災訓練への参加についても検討いたしております。

4点目の1つ目につきましては、海岸部の地区での聞き取り調査においても同様なご意見をいただいております。効果的な情報発信に努めてまいります。

2つ目につきましては、被害が甚大な場合、当市単独では困難なため、関係団体へ支援を要請し、復旧体制を構築して、対応いたします。

3つ目につきましては、孤立が想定される地区に対し、備蓄等の重要性について改めて周知してまいります。

4つ目につきましては、資機材積載と活動スペースが少ないことから、軽救急車の導入は考えておりません。

5つ目につきましては、まずは救助活動が優先となり、その後、一定の安定性が確保されてからの受入れとなると考えております。

6つ目につきましては、県内市町村と協定を結び、お互いに受入れすることといたしております。

7つ目につきましては、災害救助や災害支援の活動の拠点としては重要と捉えております。

2番目の1点目につきましては、少子化が進む中で、質の高い教育、保育の実現を目指した効果的で持続可能な運営を行うため、子供の数の将来推計を踏まえ、地域の状況を考慮した上で適正配置と民営化を検討してまいります。

今後、保護者や私立園を運営する各法人をはじめ、地域の皆様と協議を行ってまいります。

2点目につきましては、適正配置の検討には、児童生徒数だけでなく、子供たちにとって、より質の高い教育環境を整備する視点が重要であると考えており、今後、保護者や地域と課題を共有してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

では、2回目の質問をお願いします。

まず、質問の前に、私の今回経験した状況を話したいと思います。

能生地区で4時10分、震度5強の今まで経験したことのない強い揺れで、私、玄関に飛び出しました。立ってられないほどで、瓦が地面に落ちて割れていましたし、収まるのを待って、その後、近くの人たちが道路へ出て、避難場所の一時集合場所に公民館で集まりだし、区長を中心に、そこに来ていない人の家へ手分けして確認に回りました。中には、高齢者で玄関の2メートルほどの下駄箱が倒れて、出れない家もありました。玄関前の瓦を片づけている人もいました。確認作業中、3台の他県ナンバーの車が津波から避難してこられ、この場所が安全か聞いてこられ、その対応に近くの小学校を教えて、駐車場に停めるように指示しました。最初に集まった中に、90歳近い高齢者を持つ家族もあり、その方のために安全避難場所として地区公民館に移動してもらうように指示しました。

次に、最初に避難した小学校へ行き、トイレを使用するため体育館の鍵を開け、電気をつけました。既に海岸部のお住まいの方も避難しており、10台ほどの車がいました。

次に、高齢者が避難した地区公民館に行きましたが、既に公民館長が鍵を開けており、小さな子供、他県の方を含めて40名ほどの人が避難しておりました。そこでは、住所、人数把握等がされており、暖房施設もありました。夜になるため体育館に避難をしておられた方もいて、移動してもらうようにしましたし、そして、市の職員も加わり、不足している毛布、また車椅子等を手配して

もらいました。

その後、上南地区公民館を確認し、権現荘に行きましたが、そこには100名ほどの人が避難しており、道路脇に駐車をしている状況で、他県ナンバーの車がほとんどでしたが、そこでも毛布の手配を市にお願いいたしました。その後、夜中、津波注意報に切り替わり、帰宅され始め、朝にはコンビニも開店しており、2日10時に避難終了となりました。

今回の防災用具のセッティング、また受付、早朝の炊き出し、リーダーを中心に女性スタッフも含め、立ち上げることができました。

課題として、避難場所の鍵の問題、高齢者の対応、車椅子の常設、海岸部の方、また、予想していなかった他県の方々の対応も考えなければならないことが上げられます。

今回の地震の質問をしますが、細かいことを聞きます。これは、また地震が明日に起きるかもしれないため、早い段階で確認・検証することが大切と考えております。

では、自主防災組織の件からお聞きしたいと思います。

自主防災組織の育成について、まず、自分の身は自分で守る。次に情報を集め、助けに回る。その後、行政、消防、防災関係機関が到着して活動するまでの間、被害の拡大を防ぎ、命を守るために、住民一人一人が力を合わせ、活動することで、地域住民がお互いに助け合い、協力し合い、地域全体の安全を守る必要があり、逃げ遅れをつくらないためにも声をかけ、助け合って、みんなで避難する体制づくりが自主防災組織に期待されるもので、今回、大変役立ちました。

糸魚川市において、令和5年3月末で糸魚川地域で33組織、青海地域で11組織、能生地域で39組織あり、全体で83団体、約88.3%で、第3次総合計画では、令和6年度の目標を90%上げるというふうに目標が掲げております。この目標に向けて、今後どのように進めていくのかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、利根川議員の正月の地震対応、大変参考になるものでありました。

それで自主防災組織の今後の組織化でございますが、今現在、率につきましては、利根川議員がおっしゃられたとおりです。目標が90%というところで、特に青海地域が、少し自主防災組織設立率が低いのかなといったこともありますが、青海地域につきましては旧、旧といいますか今もあるんでしょうか防火・防犯といったところで、そういったところで災害対応できる組織となっておりますので、自主防災組織への移行のタイミングを計りながら、組織率を上げていければと思います。ただ組織率を上げるだけではなく、聞き取り調査でもありましたとおり、なかなか自主防災組織の活動自体がうまくいってないといったご意見も伺いましたので、組織率向上と併せまして、自主防災組織のさらなる強化にも努めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思います。

それから、平常時から自主防災組織やNPO法人、ボランティア団体との活動支援や新たなリーダー育成を図らなければなりません。今後、そのような方をどのように進めていくか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

先ほど自主防災組織の強化といったお話もさせていただきましたが、やはりこのリーダーの育成も非常に大切なことかと思えます。

そんな中で、再三答弁しております、毎年、防災リーダー研修を実施する中で、リーダーの育成も図っておりますし、また、新年度、防災士の育成といったところで予算をお認めいただければ、そういった資格取得補助ですか、といったことも試みようというふうを考えております。いずれにいたしましても、防災のリーダーの育成というのは非常に大切なことでもありますので、いろいろな観点から、育成に努めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、防災組織を通じて、住民周知するため、先ほどの質問もありましたが、市民フォーラムの計画をしておりますし、できたら出前講座をお願いしたいと思います。今回の経験を踏まえて、地震と津波のときの対応に絞ってお願いしたいと思います。出前講座はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

地震津波の出前講座、もちろん要請があれば出向きますし、また、こちらからも、必要があればどうですかということで伺いたいと思います。

いずれにいたしましても東日本大震災の後、やはり地震・津波といった出前講座、あるいは訓練ですか、そういった需要も増えてきたんですが、ここ数年、大雨による洪水、土砂災害のほうに目が行ってしまっていて、やっぱり出前講座の中心もそちらのほうへ行っておりました。今回の能登半島地震を受けて、市民の皆さん、改めて地震、また津波、地震に伴う災害、こういったものを意識されていると思いますので、当然、出前講座は増えてくると思いますので対応してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いします。

今回の地震で、車で避難していくのか、それとも歩いていくのか、また、誰を優先させなければいけないのかということをご各個人が認識してもらうように、ぜひともお願いしたいと思います。

次の（2）番の防災訓練で、まず、昨年度の防災備蓄品についてですが、今回、災害で毛布・シート等を手配してもらいました。令和5年3月末の備蓄品の状況を見て、飲料水が少ないように思います。令和4年度の水の配備数で324リットル、使用数で899リットルです。水が一番大切だと思います。駅北防災備蓄倉庫、また、能生事務所にも備蓄する必要があり、さらに救急セット、投光器、発電機も各地域に備蓄することがよいと考えますが、各地に配置できるのかどうかを伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

必要な備蓄については検討してまいります。今ほど言われた駅北倉庫にも備蓄品あるんですが、食料関係は置いていません。というのは、職員常駐していませんので万が一のためということで、青海地域も八久保倉庫というのがございまして、そこも職員常駐しておりませんので、食料、飲料水等は置いておりません。

あと、今ほどありました救急セット、あるいは投光器等々につきましてですが、投光器につきましては、各地区公民館または消防団の単位で物はあります。

ただ、実際に使っていただけているのかということは、今回も聞き取り調査の中で必要だといったところで、活用していただいた地区もございまして。そんな中で不足しているようであれば、またご相談いただければ、検討させていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今回の地震で避難所の発電機、また今言われた投光器、物資、車椅子を含む用品の再点検が必要と考えます。ダンボールベッドの組立てや簡易トイレ、トイレ用の水の確保、これは雨水をためるなど、実戦的な訓練が必要と考えますが、いかがお考えでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

訓練につきましては、基礎的な訓練から、今、議員ご提言の応用を利かしたといった訓練も必要になるかと思えます。

そんな中で、地区のレベルと言ってはちょっと語弊ありますが、状況に応じて我々もふだん相談に乗る中で訓練をしていき、またそこで課題を見つけ、次につなげていくといった対応を取っていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、車椅子を使う要配慮者、要支援者の避難の難しさを今回感じました。これも訓練と、支援を必要とする人の把握が必要と思えます。1人も取り残さないためにも、どのように訓練したらよいか、お伺いしたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

要配慮者の訓練、避難行動要支援者の避難につきましては、どこの地区も課題というふうに言っております。また訓練におきましても、実際、要配慮者を訓練に参加させてというのはなかなか難しいので要配慮者に見立てて、車椅子、あるいはリアカーに乗せた避難というのを行っていただいとる地区もございます。

そんな中で、今回、地震によりまして、高齢者はやっぱり避難に時間がかかるといったところで、自宅で避難されたという話もお伺いしております。そんな中でどのように訓練していけばいいのかというところを、また、先進事例も見た中で検討していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今回、この要配慮者、要支援者の避難に、糸魚川駅の階段を大人2人抱えて登っていったという経験もあります。車椅子で、タイヤ仕様の車椅子等あって、軽い車椅子もあって、それですと1人でも階段を持っていけるというふう聞いておりますので、その辺の配慮等も考えてお願いしたいと思えます。

次に、訓練の大切さで能生の筒石地区のような訓練を積み重ねているところもあります。市の防

災訓練を6月、行っておりますが、今回、津波ということでさらに11月の津波の日に実施してはどうかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

市の防災訓練につきましては、6月の第4日曜日に、今回の能登半島地震を想定といいますか、再現した訓練を計画を進めております。

その中で、今、議員ご提言の11月の津波防災の日に訓練をしたらどうかといったところで、もちろん実施していただける地区があれば、支援してまいりたいと思いますし、また、地震があった年でありますので、まだちょっと回答明言はできませんけども何らかの、例えば研修会するとか、そういったものもちょっと検討していく必要がありますので、議員のご提案を少し我々のほうで検討させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思います。

次に、意見なんですけど、家族と話合いの場を設けて、逃げ地図、これは安全な場所まで行く地図ということで、逃げ地図を作成しておくことが必要と考えます。子供などが遊びに行つて、よく行く場所から災害時どのように避難場所まで行くのかを地図にしておき、最後、どこに集まるかを決めておくことが大切というふうに聞いております。ぜひとも、家庭内での逃げ地図を作成をお願いしたいと思います。

次に、地震関連で、火山活動があります。

糸魚川市は、新潟焼山火山があり、毎年、火山防災研修会、火山防災協議会を開催しております。焼山火山の防災訓練は、どのように行われているのか、お聞かせください。火山ですと火砕流や火山泥流などの想定があると思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

新潟焼山の防災訓練、避難訓練ということですが、コロナ禍でちょっとできてはいなかったんですが、以前ですと、直近ですと平成30年、その前は火山防災協議会と連携した中で、平成27年に実際、上早川地区、下早川地区が避難計画に基づいた訓練を実施しております。

そんな中で、今年は新潟焼山の噴火災害から50年といったところで、今のところ講演会、ある

いは実際、地元地区の防災避難訓練というものを計画を進めておるところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

よろしくをお願いします。

次に、（3）の行政が災害時スムーズに機能するために、災害対応応援者リストをリスト化することや、災害時に即対応できる体制づくりのために市または県の退職者の方を活用したり、民間人の応援に行き、人材確保を進めていかななくてはならないと思いますが、市の考えがあるかどうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

災害時における人的支援につきましては、今、上越管内ですと、上越市とか妙高市、また、塩尻市等々で人的支援の協定を結ばせていただいております、お互いに、何かあったときには支援に回るという協定を結んでおります。

議員おっしゃるように、退職者、OBの方等もそのような仲間になり、人的支援に加わっていただけたらどうかというご案内がございますので、その辺は、まだ検討を今までしておりませんでしたので、その辺も併せて検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思っております。上越、妙高ですと、同じ震災に遭う可能性もありますので、少ないより多い応援の方をお願いしたいというふうに思います。

次に、（4）番の①、防災広報無線について、これ意見としてお願いしたいんですけど、今回、携帯のLINEによる糸魚川市の警報で、12分、津波警報の発表があり、直ちに避難してください、直ちに避難してくださいと、2度繰り返しがりました。

しかし、そのLINEの文章の中に、その下からずっと長い文章があり、要は、その津波の大きさによって、その説明がかなり長く載っております。

次に、大津波警報が出たときも同じ説明文が長々とLINEにてあったということを確認しております。これは重要なところだけで、直ちに逃げてください、直ちに避難してください、大津波警報ですというふうな単純なLINEの仕方のほうがいいんじゃないかというふうに思っておりますので、検証のほうをお願いしたいと思います。

それから、また、高齢者で携帯を持っていない方、防災無線の活用が少なかったというふうに聞

いておりますので、そちらのほうの、また検証のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、②のインフラの問題で、石川県の下水道は2か月近くになりますが、まだ他県からの応援者が入っていますが、難しい状況です。現在、糸魚川市の水道管、下水道管は、耐久性のある管を使っているか、お伺ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

水道、下水道管ともに管自体の地震に対する強度や耐久性は、一定程度を有しておりますが、管と管をつなぐ継ぎ手部分や、下水道ですとマンホールの接続部分で、管の抜け出しや必要な屈曲性など、耐震性を有していないものがあります。その大部分は、阪神大震災以降の耐震指針が改正となった平成9年度以前に施工したもので、それ以降は、耐震指針に沿った管や継ぎ手を使用して整備のほうをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今回、水道が使えないことが一番大きく取り沙汰されております。水道が使えないことで、今回、被災地の方から経験談のお話をいただきました。

まず、簡易トイレの用意は必ずしておき、トイレに保管しておくこと。100個以上を用意しても、4人家族ですと1週間しかもたない。その他トイレトペーパー、黒いごみ袋、新聞紙、タオルは使えないので、ぬれティッシュを使う。その他ラップ、ポリ袋、紙皿、割り箸、プラコップなど、使い捨てアイテムで、キャンプ用品としてストックしておくことが大切というふうに言っておられます。

最後に、2リットルの水を2から3箱ストックしておくことが必要で、これはインスタント食品やレトルト食品にも使えますし、米を炊く場合には必ず要ると。要るアイテムと言っておりました。参考にしてもらいたいと思ひます。

次に、インフラのガスの件なんですが、これもちょっと細かいようなんですが、ガスメーターの復帰方法の説明が、今回ありました。改めておしらせばん等で説明するべきと思ひますが、LPガスと都市ガス等で違うのか、また、その辺お聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

ガスメーターの復帰方法については、今回の地震直前の広報いといがわで周知しているところがありますけれども、その認知度は、まだまだ不足しているというふうに思っております。今回、避

難先から戻っても、すぐにガスが使えずにご不便おかけしたことや、私どもの地震対応業務の負担増にもつながってしまいましたので、今後、広報やパンフレットを配布して、より分かりやすい周知に努めるほか、地域の防災訓練においても機会を捉えて、広く市民に周知してまいりたいと思っております。

それとあと、LPガスのガスの遮断の解除方法については、ちょっと私、承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

それからもう一点、今回の揺れで灯油のホームタンクが倒れ、油漏れしております。防ぐために消防による、年1回のかまど点検時に、ホームタンクの根元部分のチェックやホームタンクの固定化ができていないか、指導できないか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

かまど点検といっても、うちの職員分からん職員が増えてきたんですけれども、今、一般家庭防火診断の際に、灯油タンクの使用について確認させていただき、また、給油時、それから固定について指導させていただいております。また、この地震の前でも灯油漏えい事故が結構あるということで、周知のほうもさせていただいております。

今回の地震によりまして、転倒事故も発生しておりますので、指導をさらに強化してまいります。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次の③の複合災害の問題、これ能登半島で道路整備ができていないために救助に行けない。また、行くのに時間がかかったということがありました。

糸魚川市において、北陸地方整備局の道路啓開計画は策定されているのか、また、策定されていない場所はどこなのかをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

北陸地方整備局では、当市の道路啓開計画というのは策定しておりませんが、市の地域防災計画では、緊急輸送道路としまして、北陸自動車道、国道8号、国道148号、県道が指定されて

おります。災害時に、通行を確保するために、道路啓開の方針や業務内容のほうも定めております。実際、災害におきまして、災害の種類によって被災エリアが広域に及ぶ場合と局所的な場合などケース・バイ・ケースでございますけれども、孤立を防ぐために、アクセス道路の確保として、迅速な、道路啓開や応急復旧が重要であると捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、今回、国道の茶屋ケ原、土砂崩れなど、急斜面が国道沿いに多くあり、能生の筒石地区、太平寺、鬼伏・間脇間、歌、外波、市振など、また、自転車歩行道もあり、地震後の再点検が実施できているのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

国道の危険箇所につきましては、道路のほうを管理しております国のほうから、要は定期点検のほかに、今回のように発災後の地滑り危険箇所等の点検パトロールを行っております、今現在、大きな変異のほうは確認されていないということで報告を受けております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、農林水産になると思うんですが、雪解けにより、山間部の農道、農地、また、陥没、ひび割れ、道路の波打ちなど、地震による被害が出てきておりますが、これは災害復旧工事として早急に対応できるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

雪解け後に発見されました施設の災害につきましても、災害復旧事業で対応いたします。国の災害査定前の応急工事の段階で、仮復旧ですとか本復旧もできる制度がございますので、そうした制度を積極的に活用いたしまして、営農活動にできるだけ支障が生じないよう、早期の復旧に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思います。

次に、能生地区で屋根瓦の破損がかなり多く見受けられました。応急処置で、シートの張りつけの補助は出ておりますが、今回、本工事のときに住宅店舗リフォーム補助金は、屋根瓦にも使えるのかどうかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほどおっしゃられました屋根瓦の修繕をはじめといたしまして、罹災証明の一部損壊の場合には、新年度に予定しております住宅店舗リフォーム補助金をご利用いただけるよう、今、当課のほうで準備をしております。10万円以上の修繕工事に対しまして、補助率4分の1で、上限10万円ということで補助金の予定をしているところでございます。

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員に申し上げます。

通告の範囲内をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、4番の今回、災害応援で、先ほど市長も言われました小型救急車の導入は考えてないということなんですけど、今回、災害応援で、大型車両に乗って災害地まで向かいましたが、道路状況が悪く、現地まで入れないという状況がありました。大型車両で、車両が低いために道路の陥没等により、大型車両がそれ以後、前に進めないという状況がありました。

今回、提案なんですけど、軽の救急車を、平成23年4月に改正されておまして、救急業務実施基準が施行され、西日本を中心に運用されております。軽のワンボックスで、ストレッチャーを掲載しており、山道や狭い道などを走行する4人乗りタイプとなっております。災害時、小回りが利くため、今回、地震など、玄関先まで入れるということで重宝しているということです。

それで、これも意見になるんですが、この救急車で救助に向かい、病院に着いたんですが、病院が災害で稼働していなかったという今回、事例があります。その中においても、今回、七尾市の恵寿総合病院、こちらの病院は、10年前から対策として上水道、井戸水、屋上にためた水、それから2か所からの電源、それから自家発電等で、高齢者の受入れ、また、透析患者、被災した方の受入れなどを可能な限り行ったということです。

糸魚川市の例に例えますと、糸魚川総合病院も、こちらの対策を打って、災害時でも強い病院、いつでも受け入れられるという体制を取ってもらいたいというふうに思っております。

次に、⑤今回の地震でボランティアの受入れですね。石川県を見ておきますとスムーズにできておらず、人手不足も大きな影響をしております。このようなときに、災害時相互応援協定を結び、お互い応援できるようにしておくことも大切だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

ボランティアの活動については、ボランティアを必要とする人と、それからボランティアしたいという方をコーディネートする役割が必要になります。ボランティアセンターの機能については、社会福祉協議会がその役を担っております。今回、災害、非常に広いエリアで起こったというところで、県の社会福祉協議会のほうで応援要請の連絡が来ましたが、ボランティアセンターが設置されたのは、県下では新潟市の西区に設置され、そのような調整があつて設置されたとお聞きしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ボランティアの立ち上げが、早くできればできるほど災害箇所の人員が増えて、片づけ等につながり、住民の方も喜ばれているということで、ぜひとも社会福祉協議会のほうになりますが、早期の立ち上げができるように対策のほうをお願いしたいと思います。

それから、次に6番目、災害廃棄物の漂着物の件なんです。糸魚川市の海岸を見ますと、かなり津波による災害漂着物が海岸に上がっております。それから例を挙げますと、魚のタンクとか船小屋の柱、また、壁板等があります。こちらは、多分、処理は県のほうになると思いますが、いつ頃になるのか分かればお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

お答えします。

当市は、大変長い海岸線を有しております。その海岸線のほとんどが海岸保全区域、また、漁港海岸区域というふうになっております。一部市管理区域もありますが、ほとんどが県で管理していただいている区域でありまして、県からは、今回、パトロール等を実施し、危険性のあるものについては即時撤去しているし、また、波が落ち着く来月中旬以降に、流木等の本格的な撤去作業をしたいというふうに考えていると聞いております。

また、市としましても、県の作業後、地域の住民の方、またボランティアの方等の協力を得ながら、環境美化活動等の推進により対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

県のほうによろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、7番目の、6月にもお聞きしたんですが、災害時拠点広域駐車場の必要性です。今回、地震で車の避難、高速道、国道から避難等で美山までの間、道路が大渋滞しました。これが平日で大型車両がいた場合、さらなる渋滞で身動き取れないこととなります。大型車両が避難できる駐車場の確保、また、災害時にそこを拠点として、災害復旧活動ができる設備の整った駐車場を国の力を借りまして、ぜひとも松本糸魚川連絡道路建設時に造ってもらいたいと思っておりますが、可能性はあるのか、ちょっとお聞きしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほどご提言いただきましたとおり、松本糸魚川連絡道路が完成した暁には、今まで以上に交通量とかの物流が増えまして、休憩所とか駐車場が必要になってくると思っております。

また、災害の拠点や広域的な視点においても、非常に重要であると考えておりますので、ルート帯と併せて、今ほどすぐできるかというお話だったんですが、引き続き国・県と検討のほうをしてみたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願ひしたいと思ひます。

震災の最後に、市長にお伺ひします。

今回、糸魚川市において中央区の液状化現象、京ヶ峰の造成ブロックの被害、屋根瓦等の被害が570件に及び、2月には2回にわたり市長が国に要望しております。同じ地震での災害によるもので、4県同じく平等に扱ってもらいたいと強く要望しますし、今住んでいる場所で暮らせるのか、転居しなきゃならないのか、被災者からは不安の声が聞かれます。特に年金生活者は大変な思いをしており、ぜひとも手厚い対応をよろしくお願ひしたいと思ひますが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に、能登半島地震におきましては、広域に被災を受けておるわけではありますが、やはりその被災の程度がかなり違っておる部分がございます。そのような中で、国のほうも判断をしておるお

るのだろうと捉えてるわけではありますが、しかし、起因しておる地震は、やはり一連の中で起きて
いるわけでございますので、我々といたしましては同じ扱いをしていただきたいという話をしてお
りますし、そういう中で、広域という形の中から、やはり我々といたしましては、独自といっても
やっぱり限界が出てくる可能性が非常に大きくあるわけございまして、そういった課題、そうい
ったところをどう捉えていけばいいかという、非常に悩んでる部分、そして実際、本当に外見だけ
の判断ではなくて、今、議員ご指摘のように、これから住み続けていく状態になるのかというのが、
やはり一番の、我々としてもその辺を訴えておるところでございまして、しっかりとした対応をお
願いしたいということと、やはり全体、同じ基準で支援をいただきたいという話、そしてまた、こ
れからも起き得る、この全国でも起き得る事柄であるので、そういった前例というものを取っ払っ
て進めていただきたいというお願いを強く要望させていただいてるわけございまして、情報をい
ただく中で、それが1回こっきりではなくて、機会を捉えながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思います。

次に、2の公共施設の適正配置についてお伺いします。

(1)の保育所、幼稚園の現状として、園児数が減少し、また、保育士、幼稚園の教諭、看護師
などの確保が難しくなっています。特別支援、ケアが必要な園児、未熟児が増えているため、さら
なる職員配置が必要になってきている現状です。県も潜在保育士を補助者として扱うことも検討し
ておりますし、また、他市・他県から、地域おこし協力隊として保育士を募集することも考えては
よいのではないかとこのように思っています。

昨年度、保育の在り方検討会もスタートしております。その中で、令和6年から8年まで、民営
化の再配置と法律の運営による再配置の検討をぜひとも進めてもらいたいと思っておりますが、9年度か
らスタートできるのか、市の考えを伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

初めに、地域おこし協力隊の活動につきましては、保育士の業務で取り入れている自治体もござ
いまして、通常の保育業務のほか、外部からの視点を生かして、地域資源を生かした保育プログラ
ムの企画運営を担っていただいている事例もあり、効果も期待できるものと考えております。

また、適正配置や民営化につきましては、急激な少子化におきまして、質の高い教育・保育の実
現を目指した効果的で持続的な運営を行う必要があると考えております。そのためにも、子供に必
要な集団保育の規模であるとか、小中学校区を配慮した配置、また、一定の園児数が確保できる公
立の園につきましては、民営化も視野に進めてまいりたいと考えておりますが、様々な手法もある
ことから、メリットやデメリット、こちらのほうの整理を行うとともに、子供の数の将来推計、ま

た地域実情を踏まえまして、関係機関や地域の皆様との対話を継続する中で、適正化、民営化の検討を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思います。

次に、（２）の小学校の適正配置についてです。

小学校の適正配置において、子供の意見や保護者の考え、また、地域の声を聴くことも大切です。しかし、小規模校の複式学級を考えたとき、先生の指導の大変さや事業の内容も変わり、一番大切な友達をたくさんつくること、いろんな意見、考えを聴き、話すことと思います。多くの生徒の中で学ぶことが将来大切だと思います。

今回、地震で能生小学校の建物が被害を受けました。昭和48年の校舎で、グラウンドも水もたまり、外観も黒ずんでおります。駐車場が少ないなど、問題が出ております。この機会に適正配置を進めてもらい、できれば小中一貫校、もしくは施設隣接型で、中学校の隣に建設する考えはあるかないかをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

児童数の減少による、単なる児童数で学校を統廃合するのではなくて、例えば子ども一貫教育を中核にして、小中一貫校、それから義務教育学校など、それらも選択肢の一つとしながら、子供たちを中心に据え、保護者、また地域の意見も聴きながら、検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひともお願いしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を4時といたします。

〈午後3時48分 休憩〉

〈午後4時00分 開議〉